

癒しと登攀の沢旅

## 虎毛山塊 皆瀬川 赤湯又沢～春川 本谷ダイレクトクーロワール

9月3連休は、台風16号と秋雨前線の影響で各地で大雨となったが、東北ならなんとかかなりそうだとということで、笹川がずっと行きたがっていた赤湯又沢の温泉と、春川本谷ダイレクトクーロワールをつなぐ沢旅へ行くことにした。

まずは下山口の虎毛山登山口に自転車をデポして、湯ノ又沢登山口へと向かう。湯ノ又大滝の上にあった湯ノ又温泉はすでに廃業して更地になってしまったらしく建物の形跡も発見できなかった。湯ノ又沢二俣から右俣の沢沿いの登山道をたどる。分かりにくいと登山地図には書いてあったが、そんなことは無く、結構利用されているようだ。2時間弱で稜線まで登り、ここから赤湯又沢右俣へと下降する。下り始めはやや急なところもあるが、すぐに沢型になる。途中から赤湯又の名のとおり、赤い岩となり、温泉を含んだ沢となる。しばらく下降すると滝が出てくるので、左岸から巻いていくと、昨年に田邊さん達が泊まったと思われるオンドルの台地に出た。周囲からは、ぶくぶくと温泉が噴き出している。オンドルだけで湯船はないのかなと周囲を探すと、少し下に丁度良い適温の溜まり湯があった。下降している途中に先行者の足跡があったので、この先の温泉に泊まっていそうなので、我々はこのオンドルに泊まることにした。ツェルトは暑そうなので、タープを張ってから早速、湯船につかったが、沢の中の野湯は最高だ。火照ってきたら、沢の水風呂で体を冷やして再び湯につかる。湯気の噴出孔で作ったゆで卵を肴に、湯船で飲んだビールがうまい。



オンドルでぼかぼかの幕場

2日目は、朝から小雨が降ったりやんだり。思ったよりも秋雨前線が北上しており、丁度前線の端の雨雲にかかってしまったようだ。予定通り、春川出合まで下降して春川を遡行するか、エスケープの虎毛沢を遡行するか悩ましい。虎毛沢出合まで考えながら行こうということで、出発すると、我々の幕場のすぐ下に3人パーティが泊まっていたようで、まだタープの下で寛いでいるところであった。登山口にあった新潟ナンバーの車の方達で、ぶなの会、新潟稜友会、RSSAの混成パーティとのこと。彼らも同様のルートとのこと、この先しばらく前後しながら進むことになる。この場所

【日程】 2016年  
9月17日(土)～19日(月)  
【メンバー】  
小暮(L)、笹川  
【地形図】秋ノ宮、桂沢、  
鬼首峠、軍沢  
【グレード】4級下  
【記】小暮

にも丁度よい湯船があり、我々の使った湯船よりも少しぬる目の湯であった。その先には、湯船になるようなところは見つけられず、どうやら温泉の幕場はこの2箇所だけのようだ。彼らは春川を遡行するようだし、我々も天気は良くないがエスケープするほどではないかと予定通り行くことにする。虎毛沢と赤湯又沢の出合は、3m滝が両側からかかる。虎毛沢に入ると、亀甲模様のナメが出てきたりとなかなか美しい。雨のためか水量は多く、川幅いっぱい水が流れているが、特に悪場もなく、春川出合まで下降した。ここから三滝までは、釣りをしながらの遡行となる。



ナメ床がつづく

三滝は、大きな美しい滝が三方からかかる。春川本谷は中央の滝。一段上がったところから、ロープを出して水流左側に取付くが、滑りやすくて少々嫌らしい滝だった。その先に良い幕場があったので、少し早い为本日の行動はここまでとする。焚火タープを張って、雨に備える。



美しい春川本谷

3日目は、計画では虎毛山避難小屋泊の予定だったが、雨が降ったりやんだり焚火が出来ない小屋泊まりは寒そうなので、時間によってはその日のうちに下山するつもりで出発。万滝沢出合までは、穏やかな沢が続く。3日計画ならば、2日目は万滝沢出合付近に泊まった方が3日目が短くなって良いだろう。

万滝沢をすぎるとツルツルの滝が連続する。3m滝の上の2段8m滝は、釜が深く左側をへつっていこうとするが、結局ドボンしてしまい泳ぎとなる。その先もナメ状の

滝が続き、お助け紐などを駆使しながら遡行していく。右俣出合を過ぎて本谷を進むと、登れない12m滝。ここは左から巻くが雨で泥壁が滑りやすいのでスパイクを着けた。続く15m滝も登れず、沢に降りてから右側のブッシュ帯を巻く。3m滝をすぎると、地形が複雑な三俣へ出る。注意して中央の沢に入り、7m滝をシャワークライミングだ。この先、滝場が連続して忙しい。空荷で登って荷揚げをしたりと、小難しい滝が続く。

ダイレクトクーロワール出合からは、水が無くなるようなので、ここで水を汲む。階段状の沢をあがっていくと、すぐに60m大滝だ。簡単そうに見えたが、滑りやすそうなので、一段あがったところから、ロープを結んで登り始める。最初はブッシュの詰まった斜上する岩溝沿いに左から右へと登り、そこからは灌木伝いにスラブ状の滝を登っていく。今回30mロープだったので、3ピッチの登攀となった。その先は巨岩に囲まれたCS滝。続く5m滝と登る。更に5m、6mと滝が続くが、立って悪いので、右から灌木伝いに巻いていく。地形図で見ると崖の中を登るような感じだが、まさしくそのような滝場が延々と続いた。ようやく源頭となり、沢型のはっきりとしているところを辿って





ダイレククローワール 60m 大滝

いくと、藪漕ぎも無く虎毛山山頂湿原へと飛び出した。春川本谷や虎毛沢は最後は藪漕ぎとなるので、ダイレククローワールは藪漕ぎ無しなので、なかなか良い選択枝だと思う。ちょっと名前があげ過ぎる気がするが、ルンゼっぽい大滝もあり、小難しい滝も多く登りごたえのある沢であった。

山頂湿原は、実はトマに入会する前からずっと行ってみたいところだったので、沢から湿原へ抜けたのは非常に良かった。山頂避難小屋に着くと、東北の小屋らしく快適そうなところであったが、下山してから温泉で暖まろうということで、出発となる。

登山道は急斜面であったが、急な箇所にはトラロープも設置されており、なかなか下りやすい。途中で笹川が、茸無いかないというが、あたりは急斜面のヒノキばかりなので無いよといいつつも、振り返った巨木に白っぽいものが見える。近づいてみると、なんと舞茸発見。いつか自分で見つけてみたいとおもっていたが、また一つ夢がかなってしまった。ザック満杯で、運搬にかなり難儀したが、それもまた楽しである。

下山後は、MTB で車を回収。最後の坂道の登りが辛く、なかなか疲れた。火曜日にも休みを取得していたので、この日は道の駅に泊まって、翌日、観光をしながらゆっくりと帰京した。

## 【行程】

- 9/17 湯ノ又沢登山口(10:00)～湯ノ又沢右俣～稜線(11:55)～赤湯又沢右俣下降～680m付近 c.1(14:25)
- 9/18 c.1(6:15)～虎毛沢出合(8:10)～春川出合(10:15/25)～三滝(12:50)～c.2(13:40)
- 9/19 c.2(6:10)～万滝沢出合(6:50)～右俣出合(7:45)～三俣(8:30)～ダイレククローワール出合(9:40)～虎毛山頂(13:45/14:15)～p.1234分岐(14:45)～赤倉橋 (17:20)

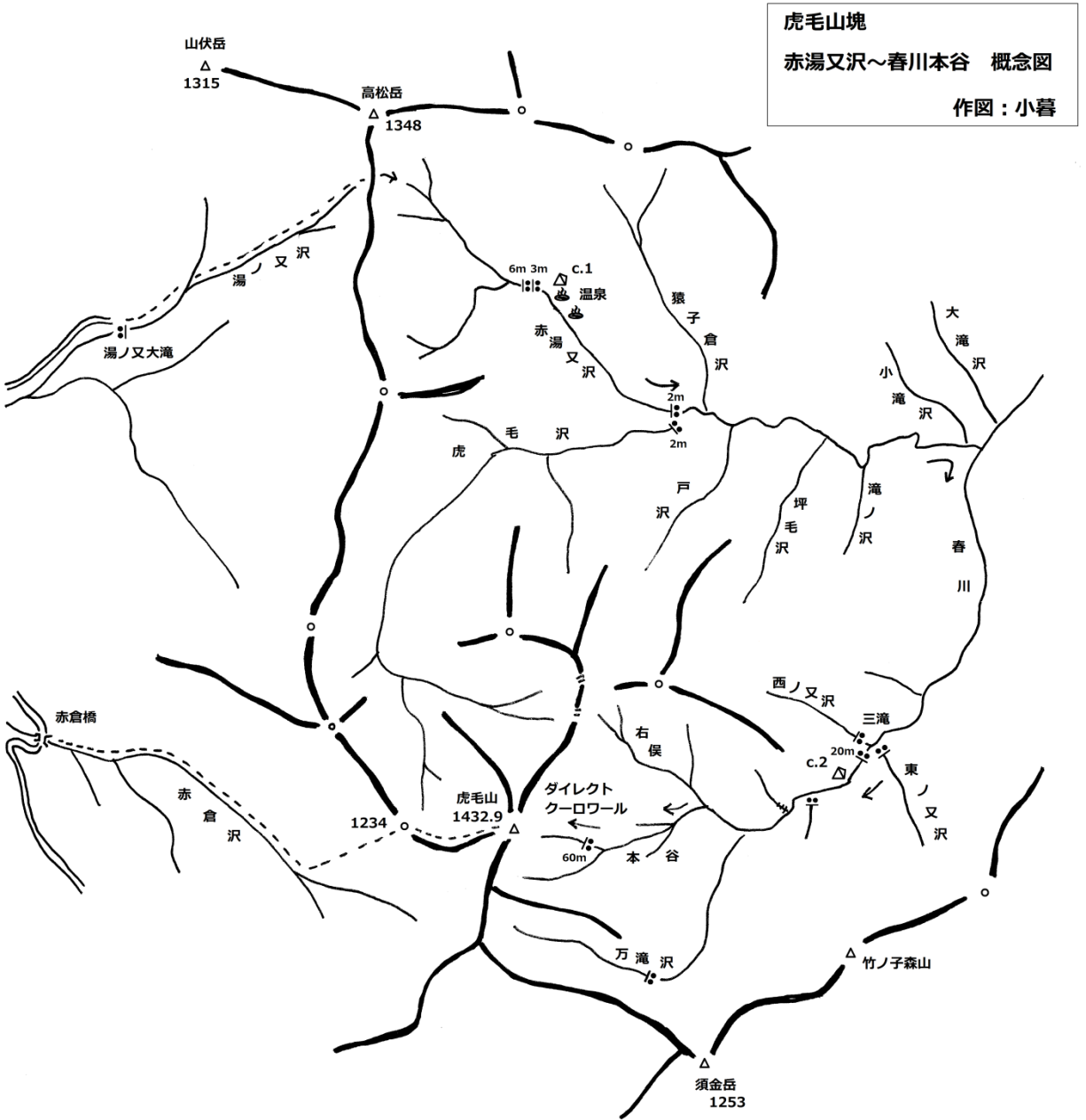


虎毛色になりつつある山頂湿原



大収穫!

# 虎毛山塊 赤湯又沢・虎毛沢・春川 周遊 概念図



# 皆瀬川春川本谷ダイレクトクローワール 遊行図

作図：小暮

